

課題 3

生物多様性、地域固有の生態系の保全

地域に固有の様々な問題

近年の著しい熱帯雨林、鎮守の森、里山などの森林の消失は、多くの生物とそれらの生育場所の減少を招き、地球温暖化の進行や自然資源の消失など、グローバル/ローカルスケールにおける多くの問題の元凶となることが懸念されています。多くの生物を育み、地域の人々のくらしと文化を築きあげてきた貴重な自然は、今もなお、急速に失われようとしています。

豊富な降水量と温暖な気候に恵まれた日本は、国土の7割近くが森林です。しかし、その内訳はスギ植林やアカマツ植林などの人工林が主体となっています。これらの人工林は、人間による徹底した管理を必要とします。経済的な理由で放置された人工林では、木々の生育不良に留まらず、土壌の流出や斜面の崩壊などを招き、地域固有の生態系を育むための環境収容力を著しく低下させる原因となっています。

潜在自然植生図をキーワードに

人間の影響を停止した時点で、その土地が支える最も発達した植生を「潜在自然植生」と言います。全国レベルで大まかに日本の潜在自然植生を推定すると、右上の図のようになります。現存植生と比べると、その土地本来の自然植生が如何に少ないかが読み取ることができます。

自然植生が極度に失われ、多くの森林が荒廃した今、まずその土地本来の自然のすがた—潜在自然植生の積極的な回復に努め、人と自然の調和の下に成り立つ持続した環境を築き上げていくことが必要です。



森林の大規模伐採



熱帯林の消失



熱帯林土壌の浸食・流失



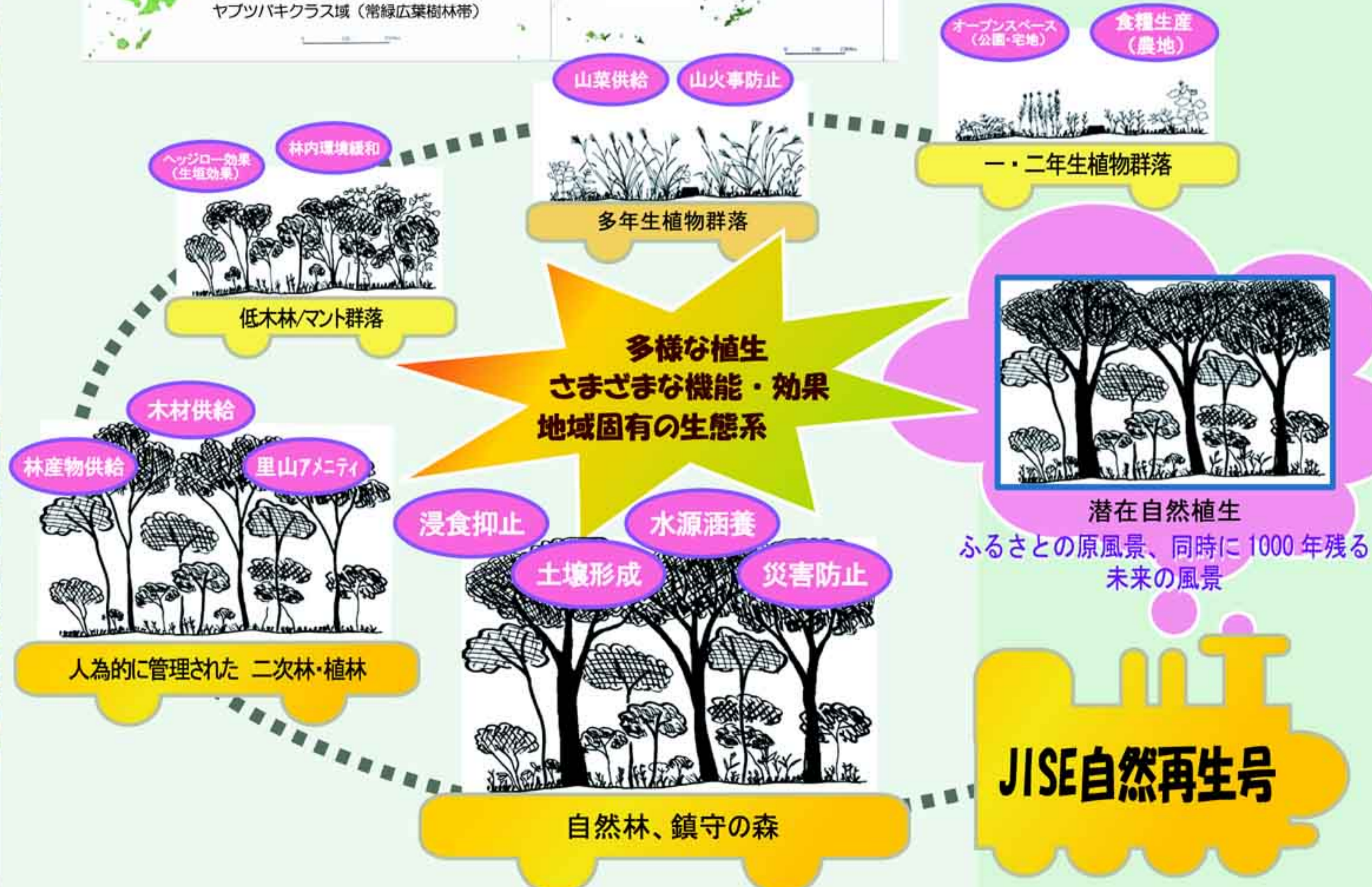
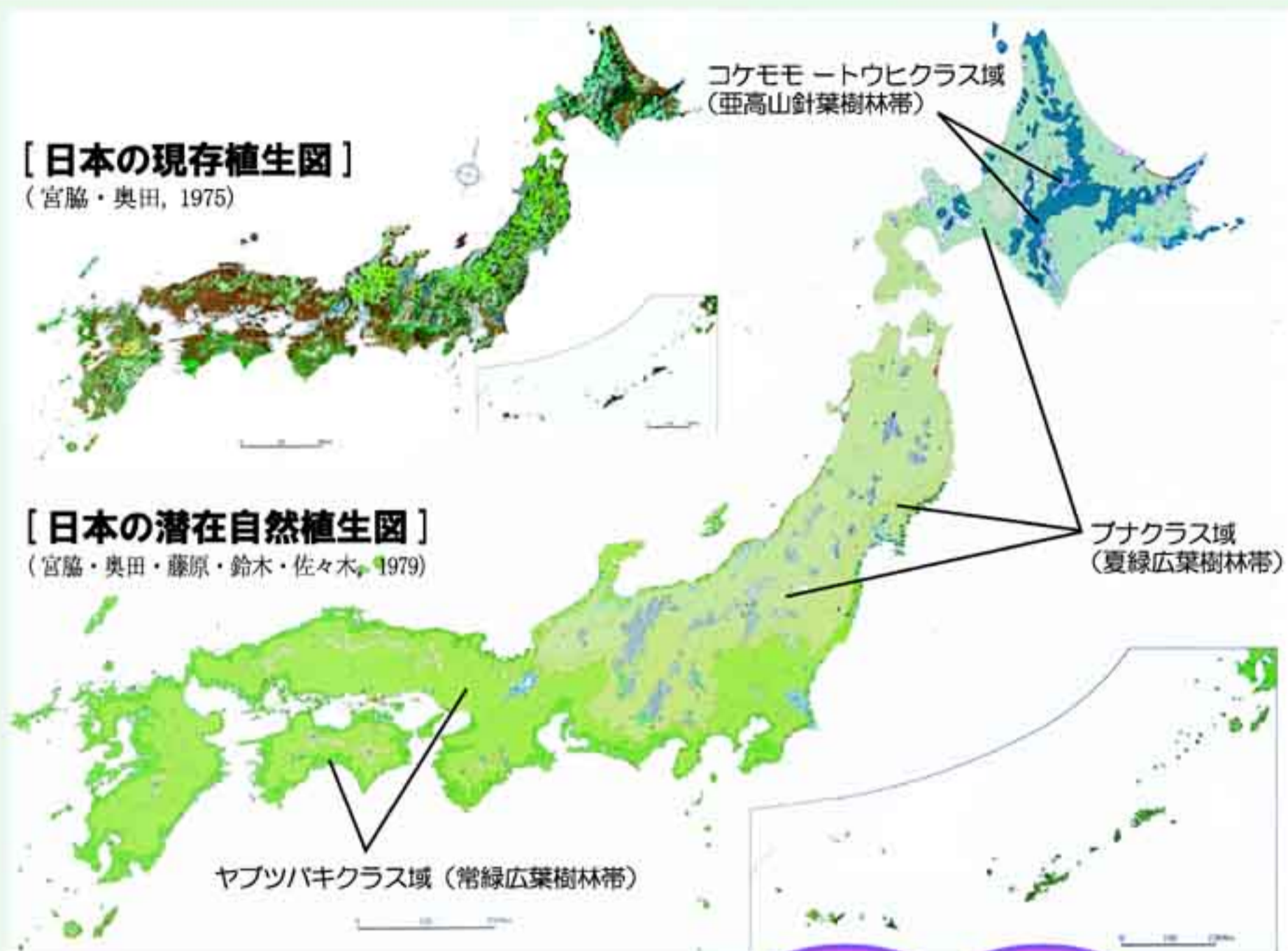
森林の一斉枯死



海岸クロマツ植林の退行（松枯れ）



コンクリート護岸による河川の無生物化



固有の生態系を守り、育む

私たちの生活に欠かすことの出来ない自然資源を持続的に利用し、予期せぬ自然災害に適切に対処しながら、より健康的で安全な社会を築きあげてゆくためには、地域における潜在自然植生の回復を念頭に据えながら、多様な生物との共存可能な「その土地固有の生態系」を維持してゆくことが不可欠です。

国際生態学センターは、

潜在自然植生の推定に基づき、極度に失われたふるさとの森、自然の姿を再生させながら、同時に多様な価値機能を有する様々な植生の回復に取り組み、総合的な地域固有の生態系の回復に努めてゆきます。

JISE自然再生号